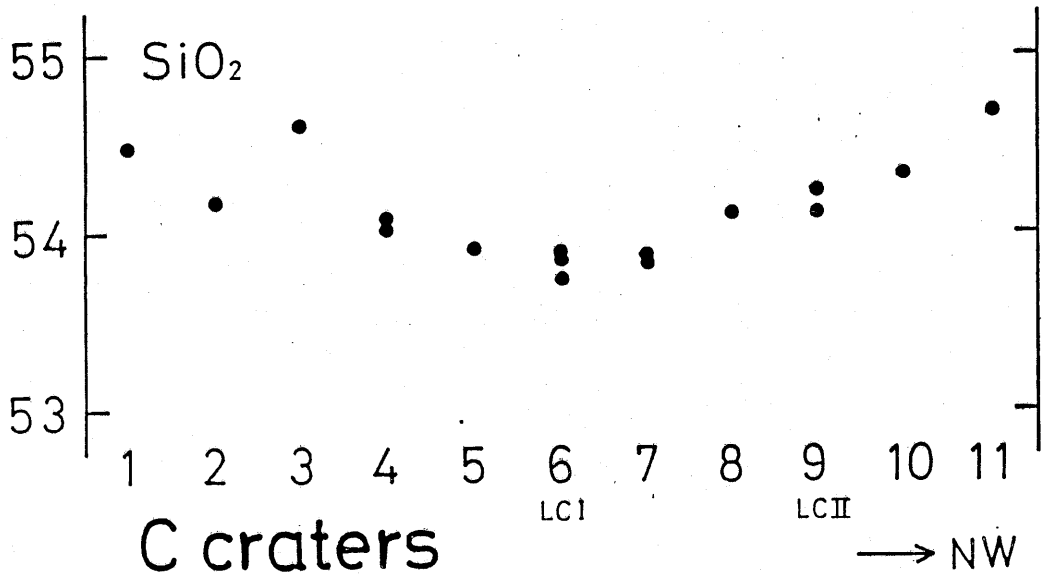


# 1986年11月21日 C火口列の噴火の経過と化学組成\*

工業技術院地質調査所\*\*

1. 元町で撮影した8mmVTR(表中の8)およびNHK報道番組のVTR(N)よりC火口列の噴火の経緯を第1表に示した。
2. 山腹斜面で割れ目噴火が開始したのはB火口群より1時間30分遅い17時47分であった。最初に開口したのはC4火口で、数分間の間に北と南に伸びている。C6火口からの溶岩の流下は18時01分から始まった。18時から18時30分の間にC7-10火口が開口したが、黒い噴煙の影になっていることが多く、更に検討を必要とする。本表では互いに矛盾するような観察結果も併記してある。
3. C火口列の各噴出火口から噴出した火山弾及び溶岩を分析した。SiO<sub>2</sub>で53.7-54.8%の組成範囲を示すが、C火口列のほぼ中央に位置するC6火口の噴出物が最もSiO<sub>2</sub>に乏しく、南と北の火口ほどSiO<sub>2</sub>に富む傾向を示す(第1図参照)。



第1図 C火口列噴出物の化学組成変化

Fig.1 SiO<sub>2</sub> variation diagram of 1986 products from C craters.

\* Received Aug. 8, 1987.

\*\* 中野 俊・山元孝広・伊豆大島火山噴火対策特別チーム

第1表 C火口列の噴火の経過

Table 1 Activities of C craters.

時刻	C火口列の活動状況	
16:15	三原山の北、カルデラ床で割れ目噴火開始。	
16:40頃	釜端付近の有料道路上に割れ目あり。	
17:47	山腹斜面で割れ目噴火開始。C4火口下端部付近が開口する。	8
17:51	C3火口が開口する。C4火口は下から上へ（北から南へ）拡大。	8
17:52	C5、C6火口が開口する。	8
~53		
17:55	C2火口から小さな火柱が上がっている。	8
18:00	C6火口から溶岩流が流下し始める。	8
18:05	C2火口から小さな火柱が上がっている。	8
18:06	C7、C8火口が開いているように見える。	N
	C6火口の北側で活動が起こる。または活発化する。	8
18:22	C1、C2火口で小さな火柱が認められる。	N
18:26	C8火口より北で開口か？（C10火口？）	N
19:00	C9~11火口が確実に活動している。	N
19:07	C11火口が確実に活動している（C11火口が開口か？）。	
19:09	C9、10火口の活動が認められる。	N
19:15	C9、10、11火口で溶岩噴泉。 このときC4、6は止まっている。	N
19:25	C9、10、11火口で溶岩噴泉。 C6火口で微かに活動がある。	N
19:40頃	C9、10、11火口で間欠的な活動がみられる。 C6火口（？）で弱い活動がみられる。	N
20:00	C9、10、11火口で活動している。	N
20:11	C11火口だけが活動的、あとは弱い。 B火口列は溶岩噴泉を続けている。	N
20:20	C火口列はほとんど溶岩噴泉なし。 B火口列は溶岩噴泉を続けている。	N
20:46	C火口列の溶岩噴泉はほとんど止まっている。	8